

## 令和7年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	53	47	38	8.0	15.7
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	472
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和7年度 大宮中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

＜国語＞昨年度の全国平均正答率と比べ、本年度は変わらず推移している中、本校の問題別正答率を見ると、読むことについては6年度より20p以上上昇している。しかし、その他の項目については下がっている。また、平均正答率で大阪府・全国を超えた問題もない。本年度は、言葉の特徴や使い方に関する事項が昨年と比べても大きく下がっており今後の対策が必要と考える。

＜数学＞【成果】全国と比較して、正答率が10.3ポイント低かったが、平均正答率の対全国比が前年度に比べて全領域で上がった。また、平均無回答率の対全国差が7.6ポイント縮まり、昨年度と比較して成果をあげることができた。【課題】全国と比較して「図形」の領域において、平均正答率の対全国比が13.5ポイントと大きく差があった。ICTを使って視覚的に捉えたり、身の回りのものと結び付けたりして考える必要があると考えられる。「記述式」の問題形式や、「思考判断表現」の観点が前年度と比較して低いことから、授業の中で考えを表現したり、他者と意見を交流したりする場面が少ないことが課題である。

＜理科＞IRTスコアは全国平均より31ポイント、大阪府平均より17ポイント低い。IRTバンド2の割合が多く基礎的な問題への対応はある程度できるが、バンド3以上の発展的な問題が解けていない傾向がある。記述式問題、特に自分で考えて答える問題で正答率が大きく下回っている傾向がある。ただ、無回答率は低い。ため、一生懸命問題に取り組む姿勢は見られる。

【今後に向けて】

＜国語＞昨年度の課題とした「読解力」は本年度は上昇しているが、言葉の特徴や使い方については大幅に下がっている。「読める」ようにはなっているが、「理解している」までは到達していないように思われる。それが「読めている」のに無回答率の改善につなげていないのではないかと考える。昨年度もあった「問題文や本文の理解が低いままでは正答を書くのが難しいと考える。」ことの改善には本年度も引き続き取り組んでいく必要がある。そのために、昨年度から取り組んでいる本文を正しく読み取り、「要約」「話し合い」「発表」などの活動を今後も継続していくことが必要。

＜数学＞教えあい・学びあい活動を通して、基礎的な学力を全体的に向上させる必要がある。また、考えを表現する活動を多く設定し、記述式などで自分の考えを答えられるように力を育てていく。

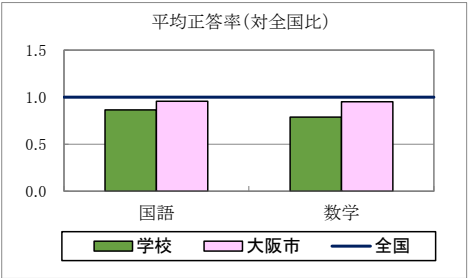
＜理科＞繰り返し学習による基礎学力の定着を図る。そのうえで、授業の中で「なぜそう考えるのか」を説明する機会を増やすことで思考力を育てる。また、実験結果やグラフなどから情報を読み取り、根拠を持って文章をまとめる機会を増やすことで、表現力も育てていく。

令和7年度 大宮中学校のあゆみ  
 ―結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について―

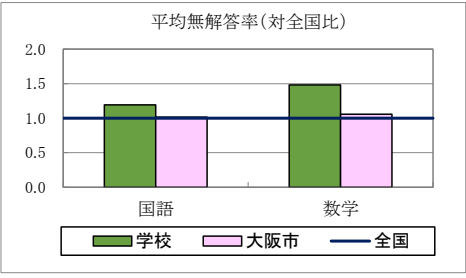
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	47	38
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

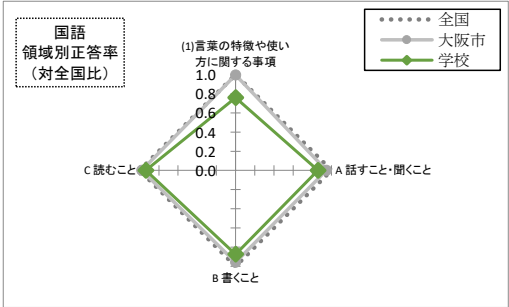
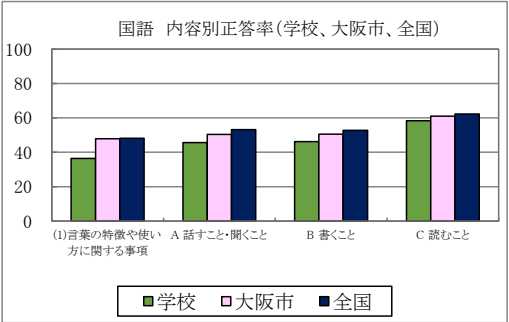


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	8.0	15.7
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



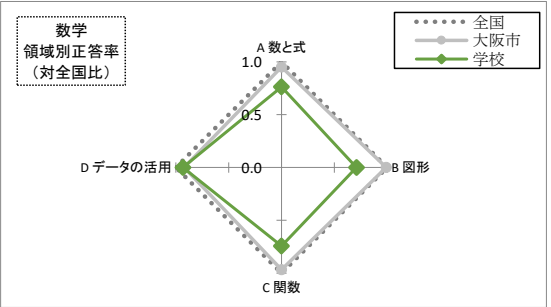
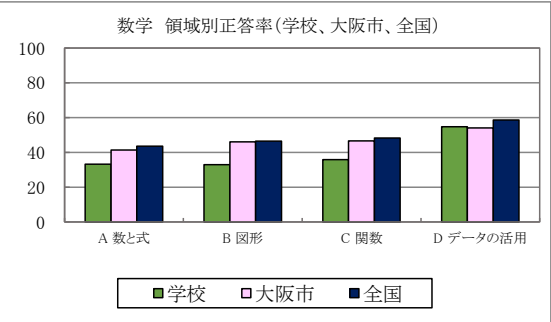
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	36.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	45.7	50.4	53.2
B 書くこと	5	46.2	50.6	52.8
C 読むこと	3	58.3	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	33.2	41.4	43.5
B 図形	4	33.0	46.1	46.5
C 関数	3	35.8	46.6	48.2
D データの活用	3	54.7	54.0	58.6

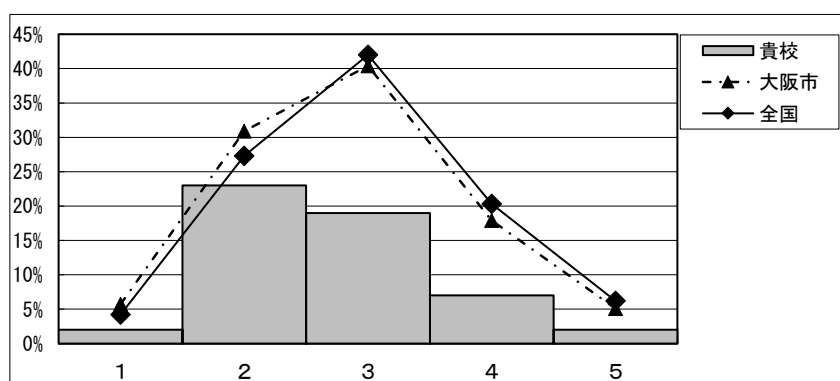
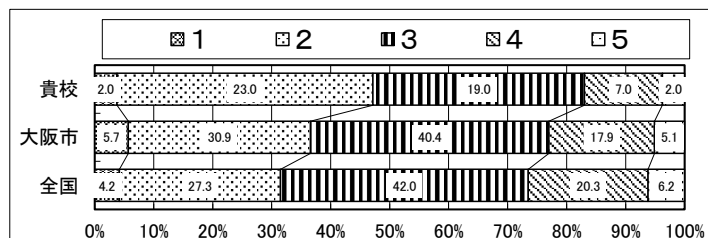


令和7年度 大宮中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	472
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

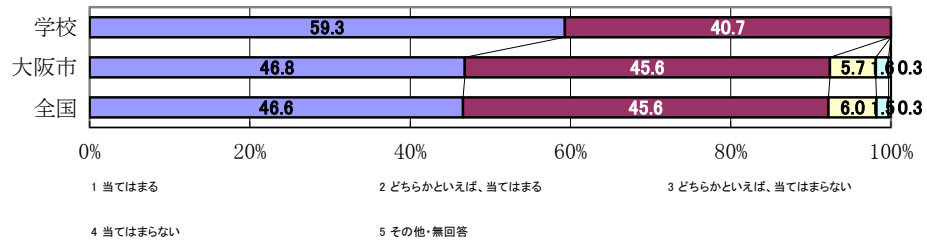
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

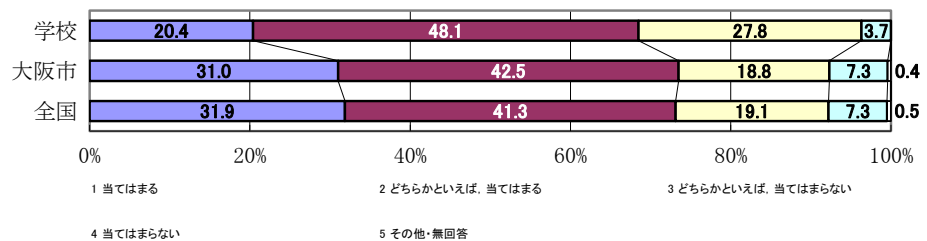
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



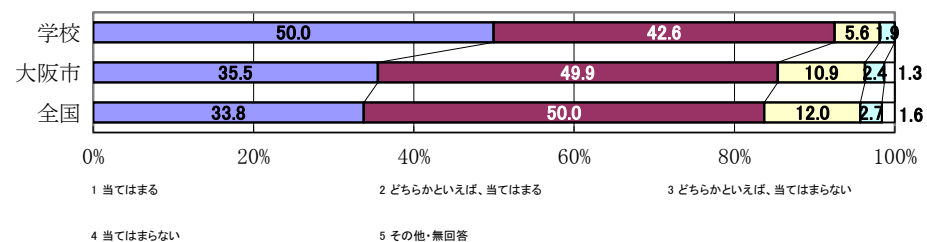
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



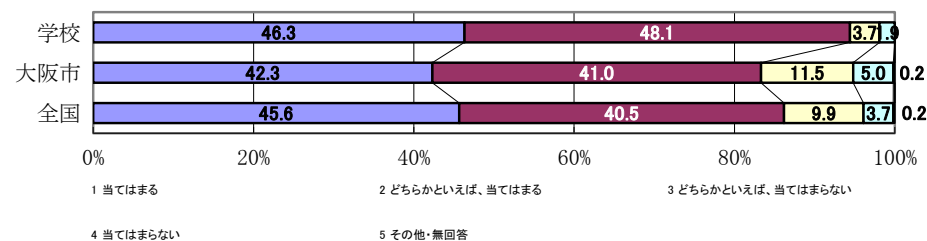
38

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



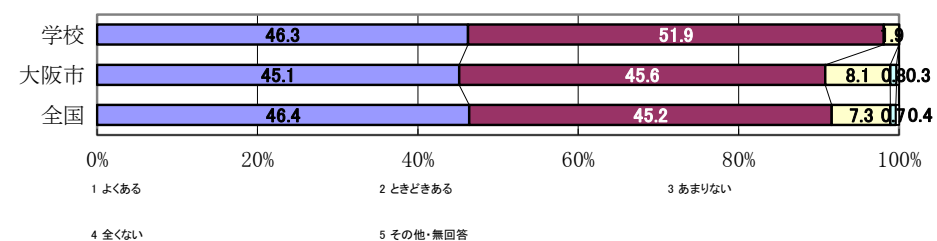
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



# 令和7年度 大宮中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

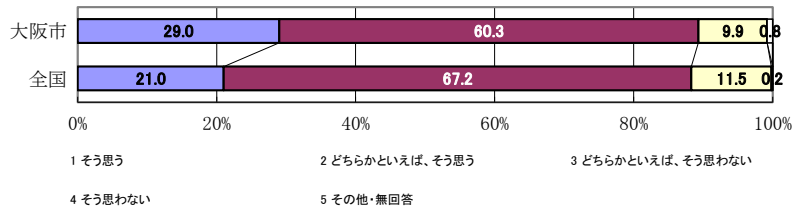
質問番号

質問事項

25

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていますか

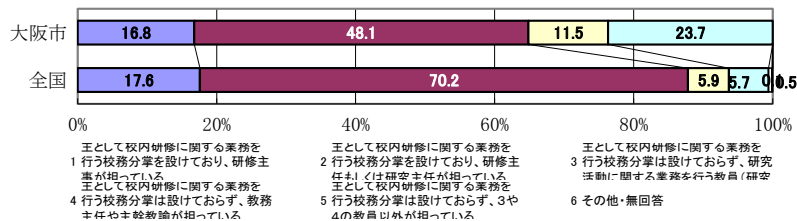
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



20

校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)

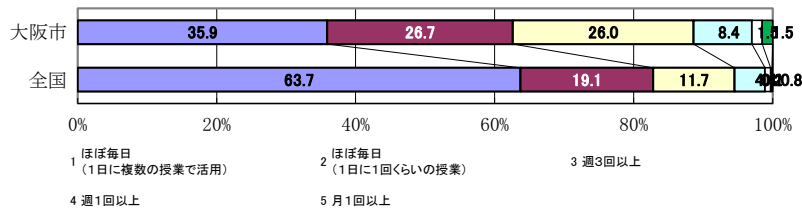
学校 「主として校内研修に関する業務を行う校務分掌を設けており、研修主任もしくは研究



58

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

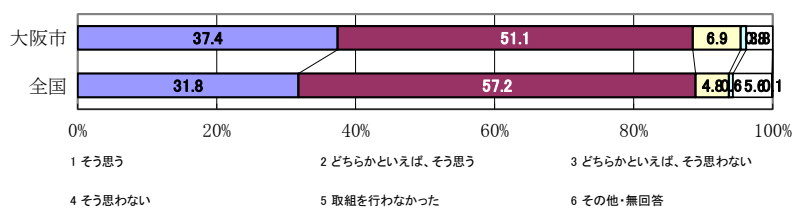
学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択



77

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか

学校 「そう思う」を選択



66

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「毎日持ち帰って、毎日利用させている」を選択

